

へて呻吟語と名く、子等之を讀め、常に誨る所永く忘る
、勿れ、我は念を西方に繋け、境を極樂淨土に托し、彌陀
本願力に助けられ、疾く一實の道に歸せんことを欣ぶ、
子等我か正念を祈れとて、淨土の十樂等の文を讀まし
め、稱名相續の間、談笑常の如くにして、十月二日午後三
時睡るか如く入寂せられぬ、(十一月十八日閣筆)

貫昭國師畧傳終

明治三十三年十一月三十日印刷
明治三十三年十二月二日發行

(非賣品)

編輯兼發行人 奥田公昭

東京市淺草區淺草公園第六區傳法院寄留

印刷人 山本鏌次郎

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所 株式會社 秀英舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

